

提案Ⅰ－①：体験型防災訓練・イベント＋防災訓練の推進

解決したい地域課題→課題解決の方向性

無関心層・未経験層の存在→参加のきっかけづくり、防災意識の啓蒙
避難所開設・運営体制の充実→避難所開設・運営訓練の充実・強化

提案の内容

1. 体験型防災プログラムの導入（対象例）

①川崎フロンターレ親子サッカードリーム教室

等々力陸上競技場。今年は10月開催で調整中

- ・区内小学生の親子500組、1000名以上が参加
- ・グラウンド周辺で複数のプログラム。従来の待機時間を活用。スタンプラリー形式で回る楽しさを演出
- ・楽しい・良い思い出として残るようにする。ゲーム形式も良い。



②中原区 警察・消防・区役所ぐるぐるツアー

平成28年8月に初めて開催。3施設を周りながらまちの安全について学ぶ

③中原区総合防災訓練

平成29年度に開催予定、夏休みの親子訓練、特徴のある地域での避難所運営訓練など検討中

④学校で「防災教室」の開催

交通安全教室と同じように学校の授業内で開催

既存の避難訓練に＋アルファとして何か一つ体験訓練をいれるなど

2. 導入プログラム（案）※個別の場や条件に合わせて検討・実施

- ・車椅子移動・放水・煙中避難・土嚢運び&積み・トイレ組立・ロープ結び・暗闇体験・非常食試作&試食などの体験（ゲーム形式もよい）
- ・防災車両や家庭で備えられる非常食などの展示・紹介
- ・防災に関するクイズコーナー 避難所の場所や機能の出題など
- ・外国人とのコミュニケーション、掲示サインのデザインなど

今後の検討課題

① きっかけづくり から 担い手・体制づくりへの道筋

② 既存の活動に参加していない高齢者や無関心層などの引き込み

担い手（取組の主体と役割等）

区民…（主体）自主防災組織、避難所運営会議、青少年育成団体、自治会町内会など

（役割）主として地域主体の体験型防災プログラム等の企画、会場、募集

行政…（役割）主として区全体を対象とした体験型防災プログラムの運営等、区民主体のプログラムの指導、企画や広報の支援など

提案Ⅰ－②：避難所運営ゲーム（HUG）等の実施推進

解決したい地域課題→課題解決の方向性

避難所開設・運営体制の充実→担い手の育成

提案の内容

1. 「避難所運営ゲーム（HUG）」の体験推進

避難所における施設利用、機能配置を題材に、避難所が直面する課題等を模擬体験するゲーム

- ・ 自主防災組織や町会単位での体験・実施を支援、機会を増やす。
- ・ こども用にアレンジして学校等でも実施する。（提案Ⅰ－④の中も良い）

※行政のみの指導・運営では機会拡大、指導体制等に限界がある。

※地域単位で経験者、運営の担い手を育て、体験者を増やしていけると良い。

※避難所運営ゲーム（HUG）の前段階等として、「クロスロード」（被災時に体験する正解のないジレンマを題材に意見の相違、合意形成の難しさなどを模擬体験するゲーム）の実施推進等も検討する。



今後の検討課題

① ゲーム実施推進の方法、対象、実施主体など

担い手（取組の主体と役割等）

区民…（主体）自主防災組織、避難所運営会議、青少年育成団体、自治会町内会など
（役割）実施機会の企画、会場、募集等→地域レベルでの担い手・指導者の育成
行政…（役割）ゲームツールの貸し出し・初回の指導 など

提案Ⅱ：中原総合防災マップづくり

解決したい地域課題→課題解決の方向性

無関心層・未経験層の存在→平常時の啓発、→災害前からの備え・対策
情報弱者の存在→互近所関係づくり、情報共有

提案の内容（案）

中原区総合防災マップ（冊子）の製作

考え方→具体的な掲載方法・内容

- ・自分の住んでいる場所の周囲の情報を知り・理解できるようにする。
→「身近な地域レベルの地図」を掲載する。
→書き込み可能な地図や欄を掲載する。（参考：福岡市こどものための防災マップ）
- ・既存の様々なマップや資料を総合的にまとめ、一括化する。
→色分け等で様々な情報をわかりやすく提示する。
- ・地域や家庭レベルに必要な情報を書き込み可能なものとする。
→付箋や書き込み可能なシールなどを盛り込む
→「無事ですカード」（提案Ⅵ）をシールまたは切り離しなどで盛り込む。
- ・「日常からの備え」「災害発生時の適切な対応・行動」のガイドとなるものとする。
→帰宅支援マップや避難生活に役立つコラム等の機能も盛り込む。
→災害への備え、災害発生時の行動に資する情報に掲載内容を絞り込む。
- ・誰にでもわかりやすく、使いやすいものとする。
→イラストなどで視覚的にアピールする。（参考：「川崎に地震が起きた日」）
→文字はできるだけ大きく、少なく。高齢者も読みやすいようにする。
→「やさしい日本語」で表記、または併記、または多言語表記などする。
→困り事や知りたい情報の内容から掲載ページを探れる「索引」機能を持たせる。



今後の検討課題

① サイズや形式

- ・サイズや形式は見易さ、使いやすさ、持ち出しやすさなどを考慮する。
地図の視認性を重視した A4 版、持ち出し重視のハンドブック版など意見あり

② 別冊の検討

- ・無事ですカード、付箋やシールなどは別冊としての製作なども検討する。

担い手（取組の主体と役割等）

区民…（主体）自主防災組織、避難所運営会議、自治会町内会、様々な活動団体、個人
（役割）マップの活用など

行政…（役割）マップの企画・編集・発行・配布 など

提案Ⅲ：防災情報の発信

解決したい地域課題→課題解決の方向性

無関心層・未経験層の存在→平常時の啓発

情報弱者の存在→弱者支援・情報の伝達

提案の内容（案）

1. 啓発短編動画の製作と配信

数十秒～数分の啓発動画を製作し、多くの区民の目に触れる場所で配信・放映する。

① 区民課窓口待合スペースのモニター

※第5期区民会議の交通安全に関する提案
で配信実績あり

② 小杉ビジョン

武蔵小杉駅南口「KOSUGI PLAZA」
屋外モニター

※市の広報で使用実績あり

③ オズ通りのデジタルサイネージの活用

④ 商店街等でのマップの掲出



2. 発信する内容（案）

① 「自宅避難生活の薦め」

災害発生後も可能ならば、自宅で過ごすことが最も快適・安全であること
避難所の環境・機能・備蓄等は万能ではなく、限界があること

自宅避難生活を可能にするローリングストック法、防災レシピなどの方法など

② 地域での防災訓練の開催情報

地域単位の防災訓練・イベントの開催予定情報

見学や参加、地域での企画などアクションにつながるような情報提供


検討事項

① 伝える・伝わる工夫など

防災に関するクイズ形式にするなど、興味を引くよう工夫する。

担い手（取組の主体と役割等）

行政…（役割）啓発動画の企画・撮影・配信など

提案Ⅳ：区民（市民）救命士の育成
解決したい地域課題→課題解決の方向性 避難所開設・運営体制の充実→担い手の発掘・育成
提案の内容（案） 市民救命士の育成 市が認定、養成している「市民救命士」※、さらにその上級資格として認定している「応急手当普及員」の区内での育成・普及の強化を図る。 ※心配蘇生法、止血法など応急手当の実技を身に付けた市民の養成を推進。講習の受講者に修了証を授与。 市全体で14,290人以上／年の養成を目標としている。 資格は概ね3年ごとの更新が目安。

検討事項 育成推進の方法 ■ 研修・講座等の開催方法、ターゲット等
担い手（取組の主体と役割等） 区民…（主体）自主防災組織、避難所運営会議、自治会町内会、様々な活動団体、個人 （役割）実施機会の企画、会場、募集、受講等 行政…（役割）養成講習の運営・修了の認定・PRなど

提案Ⅴ：罹災経験者の話・講演
解決したい地域課題→課題解決の方向性 無関心層・未経験層の存在→平常時の啓発 →災害前からの備え・対策
提案の内容（案） 罹災経験者による講演・講話の機会の推進 例1 地域の防災訓練や会合の場で開催 地域の防災訓練／地域団体会合／市民活動団体会合／地域イベントなど 例2 内容を記録と公開 冊子化／区のHP等、ネット上で公開
検討事項 講演者の確保、内容の調整など 委員のつて／講師／市役所職員（被災地支援経験者）など 依頼ルート／有償／無償、講話の効果を高めるための資料や演出など 講演・講話の場や広報など
担い手（取組の主体と役割等） 区民…（主体）自主防災組織、避難所運営会議、自治会町内会、様々な活動団体、個人 （役割）実施機会の企画、会場、募集、受講等 行政…（役割）講師の紹介・仲介など

提案VI：安否確認・避難所運営に資する資料の製作と活用

解決したい地域課題→課題解決の方向性

避難所開設・運営体制の充実→避難所機能強化

※特に市民の避難状況や安否確認、外国人支援機能の強化

提案の内容（案）

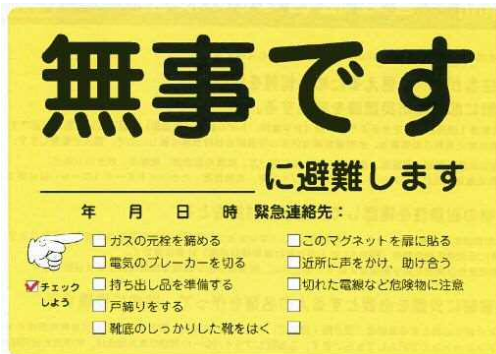
1) 無事ですカードの製作

災害発生後に救助・救援を特に必要としない家庭がドアノブや玄関前等に「無事です」
「〇〇に避難中」などの情報を掲示するカード

- ・緑色など無事をイメージし、建築物の判定などの掲示と紛らわしくない色とする。
- ・「自宅に居て・無事」も掲示できるものとする。
- ・シール形式、吊り下げタイプの穴、冊子への盛り込みなど検討する。

2) 避難所運営に資する資料の導入及びその多言語化

避難所運営に関する掲示、避難者登録カードなどの様式の事前製作と避難所への配置
多言語化など



検討事項

作成資料の内容、製作・活用方法等

※実際の災害時の混乱や困難性。個人情報の壁等への考慮も必要

担い手（取組の主体と役割等）

区民…（主体）自主防災組織、避難所運営会議、自治会町内会、様々な活動団体、個人
（役割）資料の活用

行政…（役割）資料の企画・製作・配布 など

提案Ⅶ：街中案内・マップの充実

解決したい地域課題→課題解決の方向性

分かりやすい案内・避難・救出しやすい環境づくり→サイン整備

提案の内容（案）

1) 提案Ⅱのマップの有効活用

商店街・コンビニエンスストア・町内会掲示板・交番への掲出

2) 駅周辺等の街頭案内地図の更新

- ※ 数年おきに貼り換え、情報の更新・改善が図られている。
- ・ 想定浸水深、避難所エリア、公衆トイレなどの情報の追加・整理
- ・ QRコードの活用によるネット上に掲載されたより詳しい情報へのアクセス誘導
- ・ DIG等を通じて吸い上げた地域単位の情報の掲載



検討事項

・掲載情報の取捨選択

なんでもかんでも掲載してもかえってわかりにくくなる

・地図上での表現方法

色分け・アイコン等、より分かりやすい方法の検討

担い手（取組の主体と役割等）

行政…（役割）マップの更新・設置